

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その23

文：佐藤 泰さん^{やすし}

伝統芸能・自然・伝説の郷「屋敷地区」

国道49号を新潟方面に向かい、車峠トンネルをくぐってすぐ国道を降り、川谷集落を通してしばらく南下すると、屋敷集落に入ります。群岡地区の中でも山間に位置し、古き素晴らしいものが多く残されている所です。

伝統芸能では、今は途絶えてしまった「屋敷万歳^{まんざい}」や、西会津小の児童によって継承されている「屋敷人形芝居」が特に有名です。この人形芝居では、登場する人形を片手だけで表現豊かに操ります。正月から3月までと、

田植えが終わってから7月上旬までの農閑期に各地を巡業して演じられていました。冬は主に新潟県新発田市周辺で、夏は県内では福島市、郡山市、同湖南町、県外では栃木県や千葉県までも赴いて演じたそうです。このほか、大抵は毎年、個人の祝いや学校、農協、敬老会などの催し物の後に演じていました。そんな伝統芸能も、世の中の変化に伴い、やがて行われなくなり、最後の継承者の指導によって当時の群岡小学校の児童に引き継がれ、現在に至っています。

また、清らかな鬼光頭川が流れ、国内でも有名なオパール^{オパール}の産地であったことから、これにちなみ、「まんが日本昔ばなし」で全国放映された「宝の川」という悲しくも美しい昔話が残されています。

さらに、近隣の熊沢地区には名瀑「男滝・女滝」があり、今は廃村となってしまいましたが、西山地区には山の伝承「赤い大蛇」が残されています。屋敷地区には、こうした素晴らしい伝説と豊かな自然がちりばめられています。



西小わくわくフェスティバルでの屋敷人形芝居発表



屋敷人形（貫徹和尚の手踊り）



今月の表紙

今月の表紙は、2月9日、10日に開かれた西会津雪国まつりから。大勢の子どもたちが、何回も何回も、思いつきリジャンボすべり台でそりすべりを楽しんでいました（14〜17ページに関連記事）。

編集後記

皆さんがいつも快く取材に協力してくださるおかげで、広報にしあいづが今年も県広報コンクールで佳作に選ばれました。3年連続の受賞です。先日表彰式に出席してきましたのですが、入賞作品の講評の中でも「紙面に人が登場すると親しみが持てるし、切り口も増えるのでとてもいい」といった趣旨のお話がありました。あらためて、市町村の広報紙は住民の皆さんが主役なんだなと感じました。次はあなたのもとに取材に伺うかもしれません。そのときはぜひご協力をお願いします。皆さんに感謝です。長谷川祐一